

シリーズ「グローバル・ジャスティス」
第23回

『女と虎と孤児』と コリアン・ディアスポラ

池内 靖子 氏

立命館大学産業社会学部 教授

2010年のドキュメンタリー作品、『女と虎と孤児』(2010年、ジェーン・ジン・カイスン監督：72分)は、植民地支配後の朝鮮半島の歴史を、国際養子縁組によって欧米へともらわれていった女性たちの葛藤とともに、描いた作品です。日本による植民地支配、朝鮮戦争、そして現在も続く米軍駐留のなかで女性たちに対する暴力は公的な歴史からは隠されてきました。映画鑑賞後、監督のバックグラウンドや歴史的背景を紹介しながら、『女と虎と孤児』が現在の〈わたしたち〉にどのような意味をもつのか、語りあいます。

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科では、連続セミナー「グローバル・ジャスティス」を開催いたします。このセミナーは、現代世界が直面するさまざまな課題における「ジャスティス」の問題を、講師が自らの視点で語っていくものです。したがって、どのような視角で、何を問題としてジャスティスを論じるかは講師にゆだね、主催者は一切の方向性をあらかじめ規定いたしません。ジャスティス(正義)という言葉のもつ多義性や問題性もふくめて、多様な議論の場として提供していくものです。

日時： 1月25日(水)

17:30-19:30

会場： 講武館 104 番教室

共催：「女性・戦争・人権」学会

来聴歓迎・予約不要

同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科

tel. 075-251-3930

e-mail. ji-gs@mail.doshisha.ac.jp